

「実務経験のある教員等による授業科目」  
のシラバス

2020年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 生活支援技術B	担当者 吉村 裕子
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間 (1 単位)
配当学年・時期 1 学年 前期 後期		
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。特別養護老人ホームでの勤務経験をもち、介護現場での実践をもとに、根拠に基づいた客観的で科学的な介護技術を、わかりやすく指導する。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士に必要な、入浴・清潔保持に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。また個人のプライバシーや楽しみとなる入浴について考える力を養う。最終的に、利用者の立場から「より良い入浴・清潔保持の支援」を考え、施設実習、訪問介護実習、卒業後の介護福祉の現場で実践できる力を身に付ける</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>入浴・清潔保持という具体的は生活支援の過程で、どのようにニーズを発見していくか、どのようにそれを具体化し、他職種と連携・協働していくか等を学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>入浴の意義と目的について理解し、清潔保持の重要性について説明する。必要な福祉用具を選択・活用し、利用者の状態や状況に応じた入浴の支援ができる。また、一般浴・シャワー浴・機械浴での適切な介助方法を理解し実践できる。清拭・部分浴・陰部洗浄について適切な介助方法を理解し実践できる。安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、その人らしや楽しみとなる入浴について考え実践できる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・今後の予定・自立に向けた入浴・清潔保持の介助について</li> <li>2 入浴・清潔保持の意義と目的（入浴の作用と効果）について</li> <li>3 入浴・清潔保持におけるアセスメントについて</li> <li>4 入浴・清潔保持の介助の技法③手浴・足浴</li> <li>5 入浴介助演習（手浴・足浴）</li> <li>6 入浴・清潔保持の介助の技法④全身清拭、陰部洗浄</li> <li>7 入浴介助演習（ベッド上清拭）</li> <li>8 入浴・清潔保持の介助の技法①洗髪</li> <li>9 入浴介助演習（ベッド上洗髪）</li> <li>10 入浴・清潔保持における介護技術①</li> <li>11 入浴・清潔保持の介助の技法②入浴・シャワー浴、機械浴</li> <li>12 入浴介助演習（特浴・シャワー浴）</li> <li>13 入浴・清潔保持における介護技術②</li> <li>14 入浴・清潔保持のための道具・用具</li> <li>15 入浴・清潔保持における他職種の役割と協働について・まとめ</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉用語辞典 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>前期末試験と授業点（授業態度、提出物等）及び出欠席における総合評価とする。</p>	

2020年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護の基本E	担当者 橋口 直樹
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。特別養護老人ホームや老人保健施設、デイサービス等で認知症・障がい者を有するサービス利用者や家族に対応する介護勤務経験を持ち、エビデンスと経験を融合し興味を持たせ、現場で生かせる介護の基本的な知識・技術の指導を行う。</p> <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持、自立支援という新しい介護の考え方を理解するとともに、介護を必要とする人を生活の観点から捉えるための学習。また介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解し、介護場面での事故及び感染症対策の実際や具体的手法について学ぶ。</li> <li>・介護を行う人自信の健康を守るため、こころとからだの両面から健康管理に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保とリスクマネジメントについて理解を深める。また、観察・予測・分析する力を高め、個別事例に即した提案ができるようになる。また感染管理・対策について理解し、実践につなぐ力を養う事ができる。</li> <li>・介護従事者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できるようになる。</li> </ul>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 安全・リスクマネジメントのイメージ</li> <li>2 介護における安全の確保①(観察とは)</li> <li>3 介護における安全の確保②(正確な技術, 予測・分析とは)</li> <li>4 事故防止・安全対策①(セーフティマネジメント, 緊急連絡システム)</li> <li>5 事故防止・安全対策②(転倒・転落防止, 骨折予防)</li> <li>6 事故防止・安全対策③(防火・防災対策)</li> <li>7 事故防止・安全対策④(利用者の生活の安全)</li> <li>8 感染対策①(感染予防の意義と介護)</li> <li>9 感染対策②(感染予防の基礎知識と技術)</li> <li>10 感染対策③(感染管理とは)</li> <li>11 感染対策④(衛生管理・その他)</li> <li>12 介護従事者の心身の健康管理①(心の健康管理, ストレス・燃え尽き症候群など)</li> <li>13 介護従事者の心身の健康管理②(身体の健康管理, 腰痛予防と対策など)</li> <li>14 介護従事者の心身の健康管理③(労働安全などを含む諸法律) 15まとめ</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本II 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験及び授業態度、提出物、出欠席にて判定</p>

2020年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護過程 I	担当者 廣田 敦子	
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。介護老人福祉施設、障害者施設、福祉用具貸与事業所などでの勤務経験をもち、介護現場での実践をもとに根拠に基づいた、介護過程の展開を指導する。介護福祉士の資格を持つ教員が、実務経験の知識と技術を生かした教育を行う。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 「介護過程」の意義と展開方法について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本人の望む生活を実現するために、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。 ワークを中心に「物事を進める際の考え方」を見につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護過程の一連の流れについて説明できる。</li> <li>・ 介護過程の前提としての「ニーズを見る視点」を理解する。</li> <li>・ 情報収集の大切さを理解する。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「介護過程」の展開を学ぶ前に</li> <li>2 「介護過程」の意義・目的</li> <li>3 「介護過程」の全体像</li> <li>4 「介護過程」とICF</li> <li>5 「介護過程」の展開の理解①</li> <li>6 「介護過程」の展開の理解②</li> <li>7 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解①</li> <li>8 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解②</li> <li>9 「介護過程の理解」アセスメントとは</li> <li>10 「介護過程の理解」情報収集を収集する際の留意点</li> <li>11 「介護過程の理解」アセスメントの視点</li> <li>12 事例による情報収集①</li> <li>13 事例による情報収集②</li> <li>14 事例による情報収集③</li> <li>15 まとめ 試験について</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価	

2020年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 社会の理解A	担当者 田中 加奈子
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)
配当学年・時期 1学年 前期 後期		
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。介護老人保健施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などで主に相談業務の実務経験をもち、社会のしくみや制度についてわかりやすく解説を行う。</p> <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の完成形を体系的に捉える。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度などについて学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>生活と社会のかかわりについて理解できる。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方が理解できる。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 生活を幅広くとらえる、生活の基本機能</li> <li>3 ライフスタイルの変化、家族の機能と役割</li> <li>4 社会・組織の機能と役割、地域・地域社会、地域社会における生活支援</li> <li>5 地域福祉の発展</li> <li>6 地域共生社会、地域包括ケア</li> <li>7 社会保障の基本的な考え方</li> <li>8 日本の社会保障制度の発達</li> <li>9 日本の社会保障制度のしくみ①</li> <li>10 日本の社会保障制度のしくみ②</li> <li>11 日本の社会保障制度のしくみ③</li> <li>12 現代社会と社会保障制度</li> <li>13 高齢者保健福祉の動向</li> <li>14 高齢者保健福祉に関連する法体系</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価</p>

2020年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケアⅠ・Ⅱ	担当者 山本賢子・小川輝子
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 45回	時間数(単位数) Ⅰ 60時間(4単位)
		配当学年・時期 2学年 前期 後期

本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。看護師資格を有し、病院や介護老人保健施設での勤務経験を持つ教員が、臨床経験の知識と技術を生かした教育に取り組んでいる。

[授業の目的・ねらい]

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

個人の尊厳・保健医療等の制度・喀痰吸引・経管栄養時の清潔・感染予防について学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

1. 医療的ケアが必要な利用者・家族が気持ちを理解できる。
2. 医療的ケアにおける他職種との連携の理解ができる
3. 医療的ケアにおける身体の解剖・生理・感染予防を理解できる。
4. 「たん吸引」に関する呼吸器の構造・働きや感染予防・呼吸管理方法を理解できる。
5. 「たん吸引」の基本的な留意点と技術が理解できる。
6. 「経管栄養」に関する消化器の構造・働きや感染予防・管理方法を理解できる。
7. 「経管栄養」を安全に実施するための基本知識を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回	内 容	授業方法・キーワード
1回	医療的ケア実施の基礎①	1) 医療的ケアとは 2) 医行為について
2回	医療的ケア実施の基礎②	GW 医療倫理
3回	医療的ケア実施の基礎③	1) 喀痰吸引等制度 2) 医療的ケアと喀痰吸引の背景 3) その他の制度
4回	医療的ケア実施の基礎④ 安全な療養生活	1) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、申し送りについて
5回	医療的ケア実施の基礎⑤ 清潔保持と感染予防①	1) 感染予防 2) 介護職の感染予防
6回	医療的ケア実施の基礎⑥ 清潔保持と感染予防②	1) 療養環境の清潔、消毒法 2) 消毒と滅菌 3) 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、 清潔保持
7回	医療的ケア実施の基礎⑦ 健康状態の把握①	1) 身体の健康 2) 健康状態を知るバイタルサイン
8回	医療的ケア実施の基礎⑦ 健康状態の把握②	1) 急変状態について
9回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識概論①	1) 呼吸のしくみと働き
10回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識概論②	1) いつもと違う呼吸状態
11回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識概論③	1) 喀痰吸引とは (痰の正常・異常)

12回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識概論④	1) 喀痰吸引とは 必要物品・清潔保持法(消毒剤・消毒方法)
13回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識概論⑤	1) 人工呼吸器と吸引
14回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識概論⑥	1) 子どもの吸引 2) 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
15回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識概論⑦	1) 医療行為でない行為 16項目
16回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」基礎的知識議論⑧	1) 喀痰吸引により生じる危険・事後の安全確認 2) 急変・事故発生時の対応と事前対策 3) 呼吸器系の感染と予防
17回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」実施手順①	1) 吸引の技術と留意点(口腔・鼻腔)
18回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」実施手順②	1) 吸引の技術と留意点(気管カニューレ)
19回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」まとめ	1) 小テスト(主に喀痰吸引)
20回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」基礎的知識概論①	1) 消化器系のしくみとはたらき
21回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」基礎的知識概論②	1) 消化・吸収とよくある消化器の症状
22回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」基礎的知識概論③	1) 注入する内容に関する知識
23回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」基礎的知識概論④	1) 子どもの経管栄養について
24回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」基礎的知識概論⑤	1) 経管栄養に関する感染と予防
25・26回	救急蘇生法 1/24(木)9:20~12:30	救急蘇生演習(ジャージ着用) (授業前に名前・住所の確認必要)
27回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」基礎的知識概論⑥	1) 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 2) 急変・事故発生時の対応と事前対策
28回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」基礎的知識概論⑦	1) 経管栄養におけるリスクマネジメント
29回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」実施手順①	1) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2) 経管栄養の技術と留意点①
30回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」実施手順②	1) 経管栄養の技術と留意点②
31回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」まとめ	1) 小テスト(主に経管栄養)
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 13 医療的ケア メディカルフレンド社 2016 MINER VA 福祉資格テキスト 医療的ケア ミネルヴァ書房 2013 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 中央法規 2012		[単位認定の方法及び基準] 試験・小テスト(2回)・授業態度・課題・出席状況の総合評価とする  *小テストにおいては、9割以上の者を合格とし、合格しなければ演習の授業に進めない(介護福祉法施行規則)  *救急蘇生法を受けなかった場合、各自で広島市消防局での講習を受講しなければならない

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケアⅠ・Ⅱ	担当者 山本賢子・小川輝子	
種類 (講義・演習・実習)	回数 45回	時間数(単位数) Ⅱ 30時間(1単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。看護師資格を有し、病院や介護老人保健施設での勤務経験を持つ教員が、臨床経験の知識と技術を生かした教育に取り組んでいる。</p> <p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> 演習により医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な技術を学ぶ。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「たん吸引」「経管栄養」の基本的な留意点が言える。</li> <li>「たん吸引」「経管栄養」を安全に実施するための基本技術を習得できる。</li> </ol>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	内 容	授業方法・キーワード クラスA	授業方法・キーワード クラスB
32回	医療的ケア まとめ①	練習問題A	
33回	医療的ケア まとめ②	練習問題B	
34回	医療的ケア まとめ③	演習のオリエンテーション	
35回	演習①	喀痰吸引デモンストレーション	経管栄養デモンストレーション
36回	演習②	喀痰吸引	経管栄養
37回	演習③	{ 口腔・鼻腔内吸引 気管カニューレ内吸引演習 実技試験	{ 胃ろう(半固形栄養剤) 経鼻経管栄養チューブ演習 実技試験
38回	演習④		
39回	演習⑤		
40回	演習⑥	経管栄養デモンストレーション	喀痰吸引デモンストレーション
41回	演習⑦	経管栄養	喀痰吸引
42回	演習⑧	{ 胃ろう(半固形栄養剤) 経鼻経管栄養チューブ演習 実技試験	{ 口腔・鼻腔内吸引 気管カニューレ内吸引演習
43回	演習⑨		
44回	演習⑩		
45回	演習⑪	実技試験	実技試験
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 13 医療的ケア メヂカルフレンド社 2014 MINERVA 福祉資格テキスト 医療的ケア ミネルヴァ書房 2013 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 中央 法規 2012		[単位認定の方法及び基準] 実技試験・授業態度(私語・服装チェック)・出席状況の総合 評価  *実技試験は、5回以上/1人受けなければならない。	



2020年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学臨床論Ⅰ		担当者 尾野 佳代
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間(4単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもち、現在も附属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なっている教員が、臨床経験をもとに各疾患についてわかりやすく解説を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>診察の結果をもとに鍼灸治療の適・不適を判断し、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てるための能力を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対する現代医学的な考え方と東洋医学的な考え方を、教科書をベースに配布資料を交えて学習する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>現代医学的な考え方と東洋医学的な考え方を総合的に理解し、鍼灸治療の適・不適を判断した上で、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てることができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			
1・2	治療総論／肩こり	31・32	頸肩腕痛／痺証
3・4	肩こり／眼精疲労	33・34	痺証／上肢痛
5・6	眼精疲労／頭痛	35・36	上肢痛／絞扼神経障害
7・8	頭痛／めまい	37・38	絞扼神経障害／肩関節痛
9・10	めまい／耳鳴りと難聴	39・40	肩関節痛／腰下肢痛
11・12	耳鳴りと難聴／鼻閉, 鼻汁	41・42	腰下肢痛／膝痛
13・14	鼻閉, 鼻汁／咳嗽	43・44	膝痛／運動麻痺
15・16	咳嗽／喘息	45・46	運動麻痺／顔面麻痺
17	中間試験	47・48	顔面麻痺／顔面痛
18・19	喘息／胸痛	49	中間試験
20・21	胸痛／腹痛	50・51	顔面痛／歯痛
22・23	腹痛／悪心と嘔吐	52・53	歯痛／排尿障害
24・25	悪心と嘔吐／便秘と下痢	54・55	排尿障害／月経異常
26・27	便秘と下痢／高血圧症	56・57	月経異常／食欲不振
28・29	高血圧症／低血圧症	58・59	食欲不振／肥満
まとめ・前期末試験		まとめ・後期末試験	
30	試験解説	60	試験解説
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>「東洋医学臨床論&lt;はりきゅう編&gt;」医道の日本社</p> <p>「新版 東洋医学概論」医道の日本社</p> <p>「臨床医学総論第2版」医歯薬出版株式会社</p>		<p>年4回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。(学生便覧参照)</p>	

2020年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床医学各論 I	担当者 上垣内 敬司																																
種類 (講義・演習・実習)	回数 60回	時間数(単位数) 120時間(4単位)																																
配当学年・時期 2学年 前期 後期																																		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院を開業しており、臨床経験が豊富な教員が、東洋的な考え方を紹介しながら、各疾患についての説明を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、性状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得し、また、主要疾患に関してはその病態生理と症状の発現に関して理解しながら、各疾患の病態メカニズムについてその知識を深める。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>一般医学における各系統の疾患についての基本的な知識を習得する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>臨床家として必要最低限の知識の習得と病態の把握ができるようになる。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>31 糖尿病</td> <td>32～33 その他の代謝性疾患</td> </tr> <tr> <td>1 ガイダンス、消化器疾患(口腔)</td> <td>34～36 循環器疾患(心不全、弁膜疾患)</td> </tr> <tr> <td>2～4 消化器疾患(食道・胃)</td> <td>37 循環器疾患(不整脈、先天性心疾患)</td> </tr> <tr> <td>5～7 消化器疾患(腸疾患)</td> <td>38～39 循環器疾患(冠動脈疾患)</td> </tr> <tr> <td>8～10 肝臓疾患</td> <td>40～41 循環器疾患(その他)</td> </tr> <tr> <td>11 胆のう、胆道系疾患</td> <td>42～43 血液疾患(貧血)</td> </tr> <tr> <td>12 膵臓疾患</td> <td>44 血液疾患(白血病、出血性疾患)</td> </tr> <tr> <td>13 呼吸器疾患(感染性)</td> <td>45 中間試験</td> </tr> <tr> <td>14～15 呼吸器疾患(閉塞性)</td> <td>46～48 膠原病</td> </tr> <tr> <td>16 中間試験</td> <td>49～53 神経疾患(脳血管障害、脳腫瘍など)</td> </tr> <tr> <td>17～19 呼吸器疾患(拘束性、その他)</td> <td>54～55 神経疾患(変性疾患)</td> </tr> <tr> <td>20～22 腎臓疾患</td> <td>56 神経疾患(認知症)</td> </tr> <tr> <td>23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患</td> <td>57～58 神経疾患(筋疾患、末梢神経疾患)</td> </tr> <tr> <td>25～28 内分泌疾患(下垂体、甲状腺、副腎)</td> <td>59 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>29 前期期末試験</td> <td>60 試験解説</td> </tr> <tr> <td>30 試験解説</td> <td></td> </tr> </table>			31 糖尿病	32～33 その他の代謝性疾患	1 ガイダンス、消化器疾患(口腔)	34～36 循環器疾患(心不全、弁膜疾患)	2～4 消化器疾患(食道・胃)	37 循環器疾患(不整脈、先天性心疾患)	5～7 消化器疾患(腸疾患)	38～39 循環器疾患(冠動脈疾患)	8～10 肝臓疾患	40～41 循環器疾患(その他)	11 胆のう、胆道系疾患	42～43 血液疾患(貧血)	12 膵臓疾患	44 血液疾患(白血病、出血性疾患)	13 呼吸器疾患(感染性)	45 中間試験	14～15 呼吸器疾患(閉塞性)	46～48 膠原病	16 中間試験	49～53 神経疾患(脳血管障害、脳腫瘍など)	17～19 呼吸器疾患(拘束性、その他)	54～55 神経疾患(変性疾患)	20～22 腎臓疾患	56 神経疾患(認知症)	23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患	57～58 神経疾患(筋疾患、末梢神経疾患)	25～28 内分泌疾患(下垂体、甲状腺、副腎)	59 後期期末試験	29 前期期末試験	60 試験解説	30 試験解説	
31 糖尿病	32～33 その他の代謝性疾患																																	
1 ガイダンス、消化器疾患(口腔)	34～36 循環器疾患(心不全、弁膜疾患)																																	
2～4 消化器疾患(食道・胃)	37 循環器疾患(不整脈、先天性心疾患)																																	
5～7 消化器疾患(腸疾患)	38～39 循環器疾患(冠動脈疾患)																																	
8～10 肝臓疾患	40～41 循環器疾患(その他)																																	
11 胆のう、胆道系疾患	42～43 血液疾患(貧血)																																	
12 膵臓疾患	44 血液疾患(白血病、出血性疾患)																																	
13 呼吸器疾患(感染性)	45 中間試験																																	
14～15 呼吸器疾患(閉塞性)	46～48 膠原病																																	
16 中間試験	49～53 神経疾患(脳血管障害、脳腫瘍など)																																	
17～19 呼吸器疾患(拘束性、その他)	54～55 神経疾患(変性疾患)																																	
20～22 腎臓疾患	56 神経疾患(認知症)																																	
23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患	57～58 神経疾患(筋疾患、末梢神経疾患)																																	
25～28 内分泌疾患(下垂体、甲状腺、副腎)	59 後期期末試験																																	
29 前期期末試験	60 試験解説																																	
30 試験解説																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「臨床医学各論」 医道の日本社  「STEP内科」 海馬書房  「病気がみえる」 メディックメディア</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記による試験(中間及び期末)を評価の対象とし、60点以上取得したものを合格とし、単位取得とする。</p>																																	

2020年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 社会はりきゅう学実習	担当者 尾野 龍一																															
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 3学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>																														
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもち、現在も附属鍼灸院で臨床を行なっている教員が、臨床上よく遭遇する疾患について代表的な治療法を教授する。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>現代社会における鍼灸治療の現状と課題を踏まえ、社会的ニーズの多様化に対応できる能力を修得する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>前期はスポーツ傷害に対する鍼治療、特に低周波鍼通電療法の実習を行う。</p> <p>後期は高齢者に多い疾患に対する鍼灸治療の実習を行う。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>主要な筋に対して筋パルスを行うことができる。</p> <p>高齢者に多い疾患の特性に応じた鍼灸治療を行うことができる。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 パルスの使い方 前脛骨筋への筋パルス</td> <td style="width: 50%;">16 頭皮鍼 パーキンソン病</td> </tr> <tr> <td>2 僧帽筋への筋パルス</td> <td>17 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①</td> </tr> <tr> <td>3 棘上筋, 棘下筋への筋パルス</td> <td>18 脳血管障害後遺症②</td> </tr> <tr> <td>4 上腕二頭筋への筋パルス</td> <td>19 脳血管障害後遺症③</td> </tr> <tr> <td>5 前腕屈筋群への筋パルス</td> <td>20 刺針、施灸の練習</td> </tr> <tr> <td>6 前腕伸筋群への筋パルス</td> <td>21 高血圧</td> </tr> <tr> <td>7 脊柱起立筋への筋パルス</td> <td>22 試験練習</td> </tr> <tr> <td>8 大殿筋, 中殿筋への筋パルス</td> <td>23 試験練習</td> </tr> <tr> <td>9 大腿四頭筋への筋パルス</td> <td>24 実技試験</td> </tr> <tr> <td>10 ハムストリングへの筋パルス</td> <td>25 お互いへの鍼灸治療</td> </tr> <tr> <td>11 長腓骨筋, 腓腹筋への筋パルス</td> <td>26 糖尿病</td> </tr> <tr> <td>12 試験練習</td> <td>27 排尿障害</td> </tr> <tr> <td>13 実技試験</td> <td>28 お互いへの鍼灸治療</td> </tr> <tr> <td>14 肩甲拳筋, 菱形筋への筋パルス</td> <td>29 関節リウマチ</td> </tr> <tr> <td>15 大腿筋膜張筋、への筋パルス</td> <td>30 お互いへの鍼灸治療</td> </tr> </table>				1 パルスの使い方 前脛骨筋への筋パルス	16 頭皮鍼 パーキンソン病	2 僧帽筋への筋パルス	17 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①	3 棘上筋, 棘下筋への筋パルス	18 脳血管障害後遺症②	4 上腕二頭筋への筋パルス	19 脳血管障害後遺症③	5 前腕屈筋群への筋パルス	20 刺針、施灸の練習	6 前腕伸筋群への筋パルス	21 高血圧	7 脊柱起立筋への筋パルス	22 試験練習	8 大殿筋, 中殿筋への筋パルス	23 試験練習	9 大腿四頭筋への筋パルス	24 実技試験	10 ハムストリングへの筋パルス	25 お互いへの鍼灸治療	11 長腓骨筋, 腓腹筋への筋パルス	26 糖尿病	12 試験練習	27 排尿障害	13 実技試験	28 お互いへの鍼灸治療	14 肩甲拳筋, 菱形筋への筋パルス	29 関節リウマチ	15 大腿筋膜張筋、への筋パルス	30 お互いへの鍼灸治療
1 パルスの使い方 前脛骨筋への筋パルス	16 頭皮鍼 パーキンソン病																																
2 僧帽筋への筋パルス	17 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①																																
3 棘上筋, 棘下筋への筋パルス	18 脳血管障害後遺症②																																
4 上腕二頭筋への筋パルス	19 脳血管障害後遺症③																																
5 前腕屈筋群への筋パルス	20 刺針、施灸の練習																																
6 前腕伸筋群への筋パルス	21 高血圧																																
7 脊柱起立筋への筋パルス	22 試験練習																																
8 大殿筋, 中殿筋への筋パルス	23 試験練習																																
9 大腿四頭筋への筋パルス	24 実技試験																																
10 ハムストリングへの筋パルス	25 お互いへの鍼灸治療																																
11 長腓骨筋, 腓腹筋への筋パルス	26 糖尿病																																
12 試験練習	27 排尿障害																																
13 実技試験	28 お互いへの鍼灸治療																																
14 肩甲拳筋, 菱形筋への筋パルス	29 関節リウマチ																																
15 大腿筋膜張筋、への筋パルス	30 お互いへの鍼灸治療																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>はりきゅう実技&lt;基礎編&gt; スポーツ傷害のハリ療法 鍼通電療法テクニック運動器系疾患へのアプローチ</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>実技試験で評価を行う。 実技試験60点以上の者を単位認定する。</p>																															

2020年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 包帯固定学	担当者 柳樂 美作男																																
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実習</span> )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																																
配当学年・時期 1学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">後期</span>																																		
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。接骨院（整骨院）の開業経験をもち、現在も附属接骨院で臨床を行っている。経験豊富な臨床経験から得た知識を授業内で展開し、各種外傷の固定法について理論を含めてきめ細かな実技指導を行う。</p> <p>[目的・ねらい] 実技を通じて柔道整復術の基本である包帯固定法を身につける。</p> <p>[内容の概要] 軟性材料・硬性材料の一通りの扱いを修得する。また、教科書等には掲載されていないが、施術所等で使用している固定材料（弾性包帯等）の取り扱いも修得する。（各回「基本包帯法」内）</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）] 巻軸包帯を身体各部位に適応させることができるようになるとともに、硬性材料を併用して確実な固定をできるようになる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 ガイダンス・固定とは</td> <td style="width: 50%;">16 冠名包帯法まとめ</td> </tr> <tr> <td>2 軟性材料と硬性材料・良肢位</td> <td>17 硬性材料について</td> </tr> <tr> <td>3 巻軸包帯の扱い</td> <td>18 金属副子</td> </tr> <tr> <td>4 基本包帯法</td> <td>19 金属副子</td> </tr> <tr> <td>5 基本包帯法</td> <td>20 金属副子</td> </tr> <tr> <td>6 基本包帯法</td> <td>21 厚紙副子</td> </tr> <tr> <td>7 基本包帯法</td> <td>22 厚紙副子</td> </tr> <tr> <td>8 基本包帯法</td> <td>23 すだれ副子</td> </tr> <tr> <td>9 基本包帯法</td> <td>24 すだれ副子</td> </tr> <tr> <td>10 基本包帯法</td> <td>25 ギプス包帯</td> </tr> <tr> <td>11 基本包帯法振り返り</td> <td>26 ギプス包帯</td> </tr> <tr> <td>12 冠名包帯法</td> <td>27 冠名包帯・硬性材料振り返り</td> </tr> <tr> <td>13 冠名包帯法</td> <td>28 テーピング</td> </tr> <tr> <td>14 冠名包帯法</td> <td>29 テーピング</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 前期まとめ・解説</td> <td>30 まとめ/解説</td> </tr> </table>			1 ガイダンス・固定とは	16 冠名包帯法まとめ	2 軟性材料と硬性材料・良肢位	17 硬性材料について	3 巻軸包帯の扱い	18 金属副子	4 基本包帯法	19 金属副子	5 基本包帯法	20 金属副子	6 基本包帯法	21 厚紙副子	7 基本包帯法	22 厚紙副子	8 基本包帯法	23 すだれ副子	9 基本包帯法	24 すだれ副子	10 基本包帯法	25 ギプス包帯	11 基本包帯法振り返り	26 ギプス包帯	12 冠名包帯法	27 冠名包帯・硬性材料振り返り	13 冠名包帯法	28 テーピング	14 冠名包帯法	29 テーピング	前期末試験	後期末試験	15 前期まとめ・解説	30 まとめ/解説
1 ガイダンス・固定とは	16 冠名包帯法まとめ																																	
2 軟性材料と硬性材料・良肢位	17 硬性材料について																																	
3 巻軸包帯の扱い	18 金属副子																																	
4 基本包帯法	19 金属副子																																	
5 基本包帯法	20 金属副子																																	
6 基本包帯法	21 厚紙副子																																	
7 基本包帯法	22 厚紙副子																																	
8 基本包帯法	23 すだれ副子																																	
9 基本包帯法	24 すだれ副子																																	
10 基本包帯法	25 ギプス包帯																																	
11 基本包帯法振り返り	26 ギプス包帯																																	
12 冠名包帯法	27 冠名包帯・硬性材料振り返り																																	
13 冠名包帯法	28 テーピング																																	
14 冠名包帯法	29 テーピング																																	
前期末試験	後期末試験																																	
15 前期まとめ・解説	30 まとめ/解説																																	
[使用テキスト・参考文献] 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学改定第2版 南江堂		[単位認定の方法及び基準] 前・後期それぞれ授業回数の4/5以上出席し、前期および後期に実技試験・筆記試験をそれぞれ行い、実技試験前後期平均60点以上かつ筆記試験前後期平均60点以上のものを合格とする。																																

2020年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技ⅡA	担当者 太田浩之																														
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2 単位)																														
配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。整形外科にてセラピストとして臨床を経験。運動器の急性期、回復期に対するリハビリテーションの経験を持つ。その経験から身体運動の基礎や、身体障害領域の評価等の講義・実技を指導する。</p> <p>[ 目的・ねらい ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下肢の脱臼と軟部組織損傷についての評価法、治療法の理解</li> </ul> <p>[ 内容の概要 ] ( 柔道整復学・理論編P351～P410 )</p> <p>1. 骨盤骨骨折            2. 大腿骨近位部骨折            3. 股関節脱臼            4. 股関節の軟部組織損傷</p> <p>5. 大腿骨骨幹部骨折    6. 大腿部の軟部組織損傷    7. 大腿部遠位部骨折</p> <p>8. 下腿骨近位部骨折    9. 膝関節脱臼            10. 膝蓋骨骨折            11. 膝蓋骨脱臼</p> <p>12. 膝関節の軟部組織損傷</p> <p>[ 修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他外傷または疾患との鑑別と応急処置の習得</li> </ul>																																
<p>[ 授業の日程と各回のテーマ・内容 ]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 骨盤骨骨折</td> <td style="width: 50%;">16. 大腿部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>2. 骨盤骨骨折</td> <td>17. 大腿部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>3. 骨盤骨骨折</td> <td>18. 大腿部遠位部骨折</td> </tr> <tr> <td>4. 大腿骨近位部骨折</td> <td>19. 大腿骨遠位部骨折</td> </tr> <tr> <td>5. 大腿骨近位部骨折</td> <td>20. 下腿骨近位部骨折</td> </tr> <tr> <td>6. 大腿骨近位部骨折</td> <td>21. 下腿骨近位部骨折</td> </tr> <tr> <td>7. 股関節脱臼</td> <td>22. 膝関節脱臼</td> </tr> <tr> <td>8. 股関節脱臼</td> <td>23. 膝蓋骨骨折</td> </tr> <tr> <td>9. 股関節脱臼</td> <td>24. 膝蓋骨骨折</td> </tr> <tr> <td>10. 股関節の軟部組織損傷</td> <td>25. 膝蓋骨脱臼</td> </tr> <tr> <td>11. 股関節の軟部組織損傷</td> <td>26. 膝蓋骨脱臼</td> </tr> <tr> <td>12. 股関節の軟部組織損傷</td> <td>27. 膝関節の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>13. 大腿骨骨幹部骨折</td> <td>28. 膝関節の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>14. 大腿骨骨幹部骨折</td> <td>29. 膝関節の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>15. 試験解説</td> <td>30. 試験解説</td> </tr> </table>			1. 骨盤骨骨折	16. 大腿部の軟部組織損傷	2. 骨盤骨骨折	17. 大腿部の軟部組織損傷	3. 骨盤骨骨折	18. 大腿部遠位部骨折	4. 大腿骨近位部骨折	19. 大腿骨遠位部骨折	5. 大腿骨近位部骨折	20. 下腿骨近位部骨折	6. 大腿骨近位部骨折	21. 下腿骨近位部骨折	7. 股関節脱臼	22. 膝関節脱臼	8. 股関節脱臼	23. 膝蓋骨骨折	9. 股関節脱臼	24. 膝蓋骨骨折	10. 股関節の軟部組織損傷	25. 膝蓋骨脱臼	11. 股関節の軟部組織損傷	26. 膝蓋骨脱臼	12. 股関節の軟部組織損傷	27. 膝関節の軟部組織損傷	13. 大腿骨骨幹部骨折	28. 膝関節の軟部組織損傷	14. 大腿骨骨幹部骨折	29. 膝関節の軟部組織損傷	15. 試験解説	30. 試験解説
1. 骨盤骨骨折	16. 大腿部の軟部組織損傷																															
2. 骨盤骨骨折	17. 大腿部の軟部組織損傷																															
3. 骨盤骨骨折	18. 大腿部遠位部骨折																															
4. 大腿骨近位部骨折	19. 大腿骨遠位部骨折																															
5. 大腿骨近位部骨折	20. 下腿骨近位部骨折																															
6. 大腿骨近位部骨折	21. 下腿骨近位部骨折																															
7. 股関節脱臼	22. 膝関節脱臼																															
8. 股関節脱臼	23. 膝蓋骨骨折																															
9. 股関節脱臼	24. 膝蓋骨骨折																															
10. 股関節の軟部組織損傷	25. 膝蓋骨脱臼																															
11. 股関節の軟部組織損傷	26. 膝蓋骨脱臼																															
12. 股関節の軟部組織損傷	27. 膝関節の軟部組織損傷																															
13. 大腿骨骨幹部骨折	28. 膝関節の軟部組織損傷																															
14. 大腿骨骨幹部骨折	29. 膝関節の軟部組織損傷																															
15. 試験解説	30. 試験解説																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔道整復学 ( 理論編 )</li> <li>・ 柔道整復学 ( 実技編 )</li> </ul>	<p>[ 単位認定の方法及び基準 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技試験、筆記試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。(実技試験・筆記試験：60 点以上合格)</li> <li>・ 授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。</li> </ul>																															

2020年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技ⅡB	担当者 埜 義 徳																																		
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																																		
配当学年・時期 2学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>																																				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。柔道整復師として各種スポーツのトレーナー活動を行うとともに柔整トレーナーの育成や、セミナーやイベントの講師など幅広い経験を持っている。柔道整復学の基礎となる筋・骨等の解剖学について模型などを用いて実際に触れることを主眼に授業を行う。</p> <p>[目的・ねらい] 柔道整復学の基礎知識をもとに、上肢（上腕部・肘関節部・前腕部）の損傷について整復法、固定法、検査法などの技術と知識の向上を目指す。</p> <p>[内容の概要] 各損傷について実技を交えて講義する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）] 上肢（上腕部・肘関節部・前腕部）の損傷について正しく理解し、整復固定やその他必要な検査ができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 上腕部の損傷（骨幹部骨折）</td> <td style="width: 50%;">16 肘関節部の軟部組織損傷（靭帯・野球肘）</td> </tr> <tr> <td>2 上腕部の損傷（軟部組織損傷）</td> <td>17 肘関節部の軟部組織損傷（テニス肘・その他）</td> </tr> <tr> <td>3 上腕部の損傷 (肩鎖上方脱臼整復・ミッテルドルフ固定)</td> <td>18 前腕部の骨折（橈骨骨幹部）</td> </tr> <tr> <td>4 上腕骨遠位部の骨折（顆上骨折）</td> <td>19 前腕部の骨折（ガレアジ骨折）</td> </tr> <tr> <td>5 上腕骨遠位部の骨折（外顆骨折）</td> <td>20 前腕部の骨折（尺骨骨折）</td> </tr> <tr> <td>6 上腕骨遠位部の骨折（内側上顆骨折）</td> <td>21 前腕部の骨折（モンテギア骨折）</td> </tr> <tr> <td>7 前腕近位部の骨折（橈骨近位端部骨折）</td> <td>22 前腕部の骨折（両骨）</td> </tr> <tr> <td>8 前腕近位部の骨折（肘頭骨折）</td> <td>23 前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント）</td> </tr> <tr> <td>9 実技復習①</td> <td>24 前腕部の軟部組織損傷（腱交叉症候群）</td> </tr> <tr> <td>10 実技復習②</td> <td>25 実技復習①</td> </tr> <tr> <td>※実技試験（ミッテルドルフ固定・肩鎖脱臼）</td> <td>26 実技復習②</td> </tr> <tr> <td>11 肘関節の脱臼（両骨）</td> <td>※実技試験（肘関節脱臼・肘内障）</td> </tr> <tr> <td>12 肘関節の脱臼（橈骨単独）</td> <td>27 前腕部の軟部組織損傷（神経障害）</td> </tr> <tr> <td>13 肘関節の脱臼（肘内障）</td> <td>28 肘関節部の軟損・前腕部の骨折（復習）</td> </tr> <tr> <td>14 まとめ</td> <td>29 前腕部の骨折・前腕部の軟損（復習）</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 試験解説</td> <td>30 試験解説</td> </tr> </table>			1 上腕部の損傷（骨幹部骨折）	16 肘関節部の軟部組織損傷（靭帯・野球肘）	2 上腕部の損傷（軟部組織損傷）	17 肘関節部の軟部組織損傷（テニス肘・その他）	3 上腕部の損傷 (肩鎖上方脱臼整復・ミッテルドルフ固定)	18 前腕部の骨折（橈骨骨幹部）	4 上腕骨遠位部の骨折（顆上骨折）	19 前腕部の骨折（ガレアジ骨折）	5 上腕骨遠位部の骨折（外顆骨折）	20 前腕部の骨折（尺骨骨折）	6 上腕骨遠位部の骨折（内側上顆骨折）	21 前腕部の骨折（モンテギア骨折）	7 前腕近位部の骨折（橈骨近位端部骨折）	22 前腕部の骨折（両骨）	8 前腕近位部の骨折（肘頭骨折）	23 前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント）	9 実技復習①	24 前腕部の軟部組織損傷（腱交叉症候群）	10 実技復習②	25 実技復習①	※実技試験（ミッテルドルフ固定・肩鎖脱臼）	26 実技復習②	11 肘関節の脱臼（両骨）	※実技試験（肘関節脱臼・肘内障）	12 肘関節の脱臼（橈骨単独）	27 前腕部の軟部組織損傷（神経障害）	13 肘関節の脱臼（肘内障）	28 肘関節部の軟損・前腕部の骨折（復習）	14 まとめ	29 前腕部の骨折・前腕部の軟損（復習）	前期末試験	後期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 上腕部の損傷（骨幹部骨折）	16 肘関節部の軟部組織損傷（靭帯・野球肘）																																			
2 上腕部の損傷（軟部組織損傷）	17 肘関節部の軟部組織損傷（テニス肘・その他）																																			
3 上腕部の損傷 (肩鎖上方脱臼整復・ミッテルドルフ固定)	18 前腕部の骨折（橈骨骨幹部）																																			
4 上腕骨遠位部の骨折（顆上骨折）	19 前腕部の骨折（ガレアジ骨折）																																			
5 上腕骨遠位部の骨折（外顆骨折）	20 前腕部の骨折（尺骨骨折）																																			
6 上腕骨遠位部の骨折（内側上顆骨折）	21 前腕部の骨折（モンテギア骨折）																																			
7 前腕近位部の骨折（橈骨近位端部骨折）	22 前腕部の骨折（両骨）																																			
8 前腕近位部の骨折（肘頭骨折）	23 前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント）																																			
9 実技復習①	24 前腕部の軟部組織損傷（腱交叉症候群）																																			
10 実技復習②	25 実技復習①																																			
※実技試験（ミッテルドルフ固定・肩鎖脱臼）	26 実技復習②																																			
11 肘関節の脱臼（両骨）	※実技試験（肘関節脱臼・肘内障）																																			
12 肘関節の脱臼（橈骨単独）	27 前腕部の軟部組織損傷（神経障害）																																			
13 肘関節の脱臼（肘内障）	28 肘関節部の軟損・前腕部の骨折（復習）																																			
14 まとめ	29 前腕部の骨折・前腕部の軟損（復習）																																			
前期末試験	後期末試験																																			
15 試験解説	30 試験解説																																			
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学・理論編 改訂第6版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂 解剖学 改定第2版 医歯薬出版	[単位認定の方法及び基準] 出席4/5以上を必要とする。 ①筆記試験の評価は前期と後期の評価を総合して評価する。合計120点以上（平均60点以上） ②実技試験の評価は前期と後期を総合して評価する。合計120点以上（平均60点以上） 単位取得には①と②の双方の合格を必要とする。																																			

2020年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復基礎理論 I	担当者 山根 勇
種類 (講義・演習・実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)
配当学年・時期 1学年 前期 後期		
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。接骨院（整骨院）の開業経験を持ち、現在も附属接骨院で臨床を行っている。数多くの臨床経験から得た知識を授業内で展開し、学生の外傷を診る力を育成する教育に取り組んでいる。上肢の脱臼・軟部組織損傷に対する検査法・整復法・固定法等の指導を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>柔道整復師の成り立ち、柔道整復術とはなにかを理解させる。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>柔道整復術および柔道整復師の沿革 業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領 脱臼総論、頭部・顔面及び胸部の各論</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>次年次への基礎理論の取得と将来の柔道整復師としての資質向上</p>		
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		
1 総論 柔道整復術とは一概論①	16	顔面・頭部の骨折、脱臼、軟部組織①
2 柔道整復術とは一概論②	17	顔面・頭部の骨折、脱臼、軟部組織②
3 柔道整復術とは一概論③	18	顔面・頭部の骨折、脱臼、軟部組織③
4 柔道整復術とは一概論④	19	顔面・頭部の骨折、脱臼、軟部組織④
5 人体に加わる力	20	顔面・頭部の骨折、脱臼、軟部組織⑤
6 損傷に関する身体の基礎的状态	21	顔面・頭部の骨折、脱臼、軟部組織⑥
7 損傷時に加わる力ー損傷時の力	22	顎関節脱臼整復実技
8 まとめ・中間試験	23	まとめ・中間試験
9 各組織損傷ー関節の損傷、筋の損傷①	24	胸部の骨折、軟部組織①
10 各組織損傷ー関節の損傷、筋の損傷②	25	胸部の骨折、軟部組織②
11 各組織損傷ー関節の損傷、筋の損傷③	26	肋骨骨折固定実技①
12 各組織損傷ー関節の損傷、筋の損傷④	27	肋骨骨折固定実技②
13 各組織損傷ー関節の損傷、筋の損傷⑤	28	胸部の骨折、軟部組織③
14 各組織損傷ー関節の損傷、筋の損傷⑥	29	指導管理・外傷予防
前期期末試験		後期期末試験
15 試験解説	30	試験解説
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学（理論偏・実技偏）改正第6版 南江堂	[単位認定の方法及び基準] 出席 4/5 以上を必要とする。 筆記試験の評価は中間試験と期末試験を前期と後期に計4回行い、合計240点以上（平均60点以上）で単位修得とする ※夏季休暇の宿題、確認テストは前期中間試験に加点する	

2020年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 総合演習ⅡA	担当者 久保 博子			
種類 (講義 <u>演習</u> ・実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2学年 <u>前期</u> <u>後期</u>		
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。病院・接骨院（整骨院）の勤務経験をもち、エビデンスに基づく教育に取り組んでいる。柔道整復学の基礎となる生理学の指導を行う。</p> <p>[目的・ねらい] 生理学は、文字通り「生きる理屈」を考える学問であり、神経系、感覚器系、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、運動器系などの諸機能について理解することを目的とする。柔整学科において生理学の扱う範囲は、医学部等の「生理学」教科書で扱われている範囲に加え、「生化学」「免疫学」「神経科学」等の分野をも含んでいる。これらの諸分野の相互関連性を踏まえ、解剖学とも関連づけながら、驚異的に精密な人体の仕組みを総合的に理解することを目標とする。</p> <p>[内容の概要] 生命活動の基礎となるDNA、タンパク質や糖質、脂質等のもつ基本的性質を理解し、さらに、ホルモン等、具体的な生体内物質について学び、またそれらの生体内物質により、どのように生体の恒常性（ホメオスタシス）が保たれているかを理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学①</li> <li>2. 生理学②</li> <li>3. 生理学③</li> <li>4. 生理学④</li> <li>5. 生理学⑤</li> <li>6. 生理学⑥</li> <li>7. 生理学⑦</li> <li>8. 生理学⑧</li> <li>9. 生理学⑨</li> <li>10. 生理学⑩</li> <li>11. 生理学⑪</li> <li>12. 生理学⑫</li> <li>13. 生理学⑬</li> <li>14. 生理学⑭</li> </ol> <p>まとめ・前期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. 試験解説</li> </ol> </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 生理学⑮</li> <li>17. 生理学⑯</li> <li>18. 生理学⑰</li> <li>19. 生理学⑱</li> <li>20. 生理学⑲</li> <li>21. 生理学⑳</li> <li>22. 生理学㉑</li> <li>23. 生理学㉒</li> <li>24. 生理学㉓</li> <li>25. 生理学㉔</li> <li>26. 生理学㉕</li> <li>27. 生理学㉖</li> <li>28. 生理学㉗</li> <li>29. 生理学㉘</li> </ol> <p>まとめ・後期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 試験解説</li> </ol> </td> </tr> </table>				<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学①</li> <li>2. 生理学②</li> <li>3. 生理学③</li> <li>4. 生理学④</li> <li>5. 生理学⑤</li> <li>6. 生理学⑥</li> <li>7. 生理学⑦</li> <li>8. 生理学⑧</li> <li>9. 生理学⑨</li> <li>10. 生理学⑩</li> <li>11. 生理学⑪</li> <li>12. 生理学⑫</li> <li>13. 生理学⑬</li> <li>14. 生理学⑭</li> </ol> <p>まとめ・前期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. 試験解説</li> </ol>	<p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 生理学⑮</li> <li>17. 生理学⑯</li> <li>18. 生理学⑰</li> <li>19. 生理学⑱</li> <li>20. 生理学⑲</li> <li>21. 生理学⑳</li> <li>22. 生理学㉑</li> <li>23. 生理学㉒</li> <li>24. 生理学㉓</li> <li>25. 生理学㉔</li> <li>26. 生理学㉕</li> <li>27. 生理学㉖</li> <li>28. 生理学㉗</li> <li>29. 生理学㉘</li> </ol> <p>まとめ・後期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 試験解説</li> </ol>
<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学①</li> <li>2. 生理学②</li> <li>3. 生理学③</li> <li>4. 生理学④</li> <li>5. 生理学⑤</li> <li>6. 生理学⑥</li> <li>7. 生理学⑦</li> <li>8. 生理学⑧</li> <li>9. 生理学⑨</li> <li>10. 生理学⑩</li> <li>11. 生理学⑪</li> <li>12. 生理学⑫</li> <li>13. 生理学⑬</li> <li>14. 生理学⑭</li> </ol> <p>まとめ・前期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. 試験解説</li> </ol>	<p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 生理学⑮</li> <li>17. 生理学⑯</li> <li>18. 生理学⑰</li> <li>19. 生理学⑱</li> <li>20. 生理学⑲</li> <li>21. 生理学⑳</li> <li>22. 生理学㉑</li> <li>23. 生理学㉒</li> <li>24. 生理学㉓</li> <li>25. 生理学㉔</li> <li>26. 生理学㉕</li> <li>27. 生理学㉖</li> <li>28. 生理学㉗</li> <li>29. 生理学㉘</li> </ol> <p>まとめ・後期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>30. 試験解説</li> </ol>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第3版 根来英雄 他著 南江堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席は前期、後期それぞれ2/3を必要とする。 前期、後期それぞれ期末試験を行い、計2回の試験成績を合算して評価する。</p>			



2020年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技 I	担当者 加藤 彩花																															
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> )	回数 30 回	時間数(単位数) 60 時間 ( 2 単位 )	配当学年・時期 1 学年 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期																														
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。整形外科にてセラピストとして臨床を経験。主に運動疾患のリハビリテーションを担当。また、急性期から生活期に至るまで、幅広い経験をもとに、適切かつ臨床的な内容を講義する。</p> <p>[ 目的・ねらい ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体、特に運動器の基礎解剖を理解し、医療系科目を学ぶための基礎を作る</li> <li>・各種治療法を学ぶための基礎を作る</li> </ul> <p>[ 内容の概要 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体解剖について解剖学 I B (解剖学 p 21～122) の基礎的な知識をさらに実際に触れて確認する。関節や筋なども確実に理解する。</li> </ul> <p>[ 修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な人体解剖 (運動系) が理解できている。主な骨・筋に触れることができる。</li> </ul>																																	
<p>[ 授業の日程と各回のテーマ・内容 ]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 総論 (骨について) p 21～</td> <td>16 筋のルールと作用 p 70～</td> </tr> <tr> <td>2 脊柱 (脊柱の役割～胸椎) p 28～</td> <td>17 頭部の筋・咀嚼筋 p 76～</td> </tr> <tr> <td>3 脊柱 (腰椎～連結) p 31～</td> <td>18 頸部の筋 p 78～</td> </tr> <tr> <td>4 胸郭 p 33～</td> <td>19 胸部の筋 p 81～</td> </tr> <tr> <td>5 上肢骨 (肩甲骨～鎖骨) p 36～</td> <td>20 腹部の筋 p 85～</td> </tr> <tr> <td>6 上肢骨 (上腕骨～尺骨) p 38～</td> <td>21 背部の筋 p 88～</td> </tr> <tr> <td>7 <b>確認テスト①</b></td> <td>22 <b>確認テスト③</b></td> </tr> <tr> <td>8 上肢骨 (手～上肢関節) p 42～</td> <td>23 上肢帯の筋・上腕の筋 p 92～</td> </tr> <tr> <td>9 下肢骨 (寛骨～大腿骨) p 46～</td> <td>24 前腕・手の筋 p 97～</td> </tr> <tr> <td>10 下肢骨 (大腿骨～下腿骨) p 50～</td> <td>25 内・外寛骨筋 p 107～</td> </tr> <tr> <td>11 下肢骨 (足根骨～趾) p 53～</td> <td>26 大腿の筋 p 111～</td> </tr> <tr> <td>12 下肢関節・頭蓋骨の構成 p 55～</td> <td>27 下腿の筋 p 114～</td> </tr> <tr> <td>13 頭蓋骨 (内頭蓋底) 顎関節 p 59～</td> <td>28 足の筋 p 118～</td> </tr> <tr> <td>14 <b>確認テスト②</b></td> <td>29 <b>確認テスト④</b></td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td>30 まとめ</td> </tr> </table>				1 総論 (骨について) p 21～	16 筋のルールと作用 p 70～	2 脊柱 (脊柱の役割～胸椎) p 28～	17 頭部の筋・咀嚼筋 p 76～	3 脊柱 (腰椎～連結) p 31～	18 頸部の筋 p 78～	4 胸郭 p 33～	19 胸部の筋 p 81～	5 上肢骨 (肩甲骨～鎖骨) p 36～	20 腹部の筋 p 85～	6 上肢骨 (上腕骨～尺骨) p 38～	21 背部の筋 p 88～	7 <b>確認テスト①</b>	22 <b>確認テスト③</b>	8 上肢骨 (手～上肢関節) p 42～	23 上肢帯の筋・上腕の筋 p 92～	9 下肢骨 (寛骨～大腿骨) p 46～	24 前腕・手の筋 p 97～	10 下肢骨 (大腿骨～下腿骨) p 50～	25 内・外寛骨筋 p 107～	11 下肢骨 (足根骨～趾) p 53～	26 大腿の筋 p 111～	12 下肢関節・頭蓋骨の構成 p 55～	27 下腿の筋 p 114～	13 頭蓋骨 (内頭蓋底) 顎関節 p 59～	28 足の筋 p 118～	14 <b>確認テスト②</b>	29 <b>確認テスト④</b>	15 まとめ	30 まとめ
1 総論 (骨について) p 21～	16 筋のルールと作用 p 70～																																
2 脊柱 (脊柱の役割～胸椎) p 28～	17 頭部の筋・咀嚼筋 p 76～																																
3 脊柱 (腰椎～連結) p 31～	18 頸部の筋 p 78～																																
4 胸郭 p 33～	19 胸部の筋 p 81～																																
5 上肢骨 (肩甲骨～鎖骨) p 36～	20 腹部の筋 p 85～																																
6 上肢骨 (上腕骨～尺骨) p 38～	21 背部の筋 p 88～																																
7 <b>確認テスト①</b>	22 <b>確認テスト③</b>																																
8 上肢骨 (手～上肢関節) p 42～	23 上肢帯の筋・上腕の筋 p 92～																																
9 下肢骨 (寛骨～大腿骨) p 46～	24 前腕・手の筋 p 97～																																
10 下肢骨 (大腿骨～下腿骨) p 50～	25 内・外寛骨筋 p 107～																																
11 下肢骨 (足根骨～趾) p 53～	26 大腿の筋 p 111～																																
12 下肢関節・頭蓋骨の構成 p 55～	27 下腿の筋 p 114～																																
13 頭蓋骨 (内頭蓋底) 顎関節 p 59～	28 足の筋 p 118～																																
14 <b>確認テスト②</b>	29 <b>確認テスト④</b>																																
15 まとめ	30 まとめ																																
<p>[ 使用テキスト・参考文献 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 ( 理論編 )</li> <li>・解剖学</li> </ul>		<p>[ 単位認定の方法及び基準 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前・後期 2 回ずつの確認テスト、授業態度等を総合的に判断し評価する。</li> <li>・授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。</li> </ul>																															

2020年度授業概要

必修

学科名 口腔保健学科	科目名 歯科予防処置実技実習 I	担当者 末永 由美																									
種類 (講義・演習・実習)	回数 36回	時間数(単位数) 72時間(2単位)																									
		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																									
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での10年以上の臨床経験があり、多くの臨床経験から得た知識技術の中で、基礎的な知識・技術の習得を目的とし教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生士が行うことのできる歯科予防処置法の内容を理解し、器具の正しい把持法、基本的な技術・術式を身に付け、これからの実践で使える技術の基盤作りを目的とする。</p> <p>さらに、患者とのコミュニケーションを円滑にする大切さを理解することを目標とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>臨床の場で実際に患者さんに対して“患者さんのために”自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。</p> <p>また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。</p>																											
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>17 前期期末試験</td> </tr> <tr> <td>1 実技オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>18 試験解説</td> </tr> <tr> <td>2 ピンセット・ミラーの取り扱い方</td> </tr> <tr> <td>19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)</td> </tr> <tr> <td>3 スケーラーの把持法</td> </tr> <tr> <td>20 スケーラーの把持法と固定の取り方</td> </tr> <tr> <td>4 ファントムの取り扱い・ポジション</td> </tr> <tr> <td>21 0度挿入</td> </tr> <tr> <td>5 基本の姿勢</td> </tr> <tr> <td>22~27 グレーシーキュレットスケーラー操作方法</td> </tr> <tr> <td>6 シックルスケーラー(構造、特徴)</td> </tr> <tr> <td>25~26 齶蝕活動性試験</td> </tr> <tr> <td>7~8 スケーラーの固定</td> </tr> <tr> <td>27 フッ化物の応用、後期末試験について</td> </tr> <tr> <td>9~12 シックルスケーラー操作方法</td> </tr> <tr> <td>31 プロービング</td> </tr> <tr> <td>13 シックルスケーラーシャープニング</td> </tr> <tr> <td>32 シャープニング、歯面研磨</td> </tr> <tr> <td>14 演習・前期末試験について</td> </tr> <tr> <td>33~34 演習</td> </tr> <tr> <td>15 演習</td> </tr> <tr> <td>35 後期末試験</td> </tr> <tr> <td>16 演習(シックルスケーラー操作・シャープニング)</td> </tr> <tr> <td>36 試験解説</td> </tr> </table>			17 前期期末試験	1 実技オリエンテーション	18 試験解説	2 ピンセット・ミラーの取り扱い方	19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)	3 スケーラーの把持法	20 スケーラーの把持法と固定の取り方	4 ファントムの取り扱い・ポジション	21 0度挿入	5 基本の姿勢	22~27 グレーシーキュレットスケーラー操作方法	6 シックルスケーラー(構造、特徴)	25~26 齶蝕活動性試験	7~8 スケーラーの固定	27 フッ化物の応用、後期末試験について	9~12 シックルスケーラー操作方法	31 プロービング	13 シックルスケーラーシャープニング	32 シャープニング、歯面研磨	14 演習・前期末試験について	33~34 演習	15 演習	35 後期末試験	16 演習(シックルスケーラー操作・シャープニング)	36 試験解説
17 前期期末試験																											
1 実技オリエンテーション																											
18 試験解説																											
2 ピンセット・ミラーの取り扱い方																											
19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)																											
3 スケーラーの把持法																											
20 スケーラーの把持法と固定の取り方																											
4 ファントムの取り扱い・ポジション																											
21 0度挿入																											
5 基本の姿勢																											
22~27 グレーシーキュレットスケーラー操作方法																											
6 シックルスケーラー(構造、特徴)																											
25~26 齶蝕活動性試験																											
7~8 スケーラーの固定																											
27 フッ化物の応用、後期末試験について																											
9~12 シックルスケーラー操作方法																											
31 プロービング																											
13 シックルスケーラーシャープニング																											
32 シャープニング、歯面研磨																											
14 演習・前期末試験について																											
33~34 演習																											
15 演習																											
35 後期末試験																											
16 演習(シックルスケーラー操作・シャープニング)																											
36 試験解説																											
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論</p> <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。60点に満たない者は、再試験を行う。再試験は、再試験のみを評価する。</p> <p>実習時間外に練習を行い基本的な技術を身に付けるように努力すること。</p> <p>技術が著しく劣っている者には、2年生で行う相互実習に参加できない場合がある。</p>																											

## 2020年度授業概要

必修

学科名 口腔保健学科	科目名 歯科予防処置実技実習Ⅱ	担当者 末永 由美	
種類 (講義・演習・実習)	回数 18回	時間数(単位数) 36時間(1単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 歯科医院での10年以上の臨床経験があり、臨床経験をもとに実際の臨床症例にあわせた処置方法や対応について教育を行っている。 [目的・ねらい] 歯周組織の病的変化を見逃さないために、健康像を十分に理解し、常に人が健康でいられる状態を保つ事が出来るようにする。またさらに、歯周治療の流れを理解し、応用力を身に付け、患者とのコミュニケーションを円滑にすることを目標とする。 [内容の概要] 歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。 [修了時の達成課題(到達目標)] 臨床の場で実際に患者さんに対して“患者さんのために”自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。 また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			
1	口腔内診査・プロービング(ファントム)	12	シャープニングセミナー
2~4	口腔内診査(相互実習)	13	シャープニング
5	チェックテスト説明、演習	14~15	歯肉縁下歯石の除去と歯面研磨(相互)
6	エアフロー・歯面研磨(ファントム)	16	演習
7	エアスケーラー(ファントム)	17	登院前試験
8~9	超音波スケーラー、手用スケーラー(相互)	18	フィードバック
10	チェックテスト		
11	フィードバック、 後期末試験説明		
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版		[単位認定の方法及び基準] 期末試験、チェックテスト、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。 チェックテスト未受験の者は期末試験を受験する事が出来ないとする。 チェックテスト、期末試験の本試験が60点に満たない者は、再試験を行う。 再試験は、再試験のみを評価する。 技術向上の為に実習授業時間外にも練習を行うこと。 技術が著しく劣っている者には、相互実習に参加させない。	

2020年度授業概要

必修

学科名 口腔保健学科	科目名 歯科保健指導実技実習 I	担当者 植松 汐美			
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (1単位)	配当学年・時期 1学年 前期 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい] 口腔清掃指導を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>[内容の概要] 歯・口腔の清掃に関する清掃用具の特徴と操作方法、歯磨剤、洗口剤、歯垢染色剤の特徴と使用法 口腔内の観察、口腔清掃状態の評価</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ] 口腔清掃用具などの種類について説明ができる。歯磨剤とフッ化物配合歯磨剤の特徴について説明ができる。口腔清掃法について説明、実施ができる。口腔内の観察ができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 口腔清掃用具 I</li> <li>2 口腔清掃用具 II</li> <li>3 化学的清掃法 I</li> <li>4 化学的清掃法 II</li> <li>5 口腔清掃用具 I</li> <li>6 口腔清掃用具 II</li> <li>7 口腔清掃方法 (発表)</li> <li>8 口腔清掃方法 (フィードバック)</li> <li>9 歯垢染色法</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>10 口腔清掃状態に関する指標</li> <li>11 口腔清掃実習 I</li> <li>12 口腔清掃実習 II</li> <li>13 口腔清掃実習 (相互)</li> <li>14 口腔清掃補助用具実習</li> <li>15 チェックテスト (A B 合同)</li> <li>16 まとめ</li> <li>17 期末実技試験</li> <li>18 解説</li> </ul> </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> <li>1 口腔清掃用具 I</li> <li>2 口腔清掃用具 II</li> <li>3 化学的清掃法 I</li> <li>4 化学的清掃法 II</li> <li>5 口腔清掃用具 I</li> <li>6 口腔清掃用具 II</li> <li>7 口腔清掃方法 (発表)</li> <li>8 口腔清掃方法 (フィードバック)</li> <li>9 歯垢染色法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 口腔清掃状態に関する指標</li> <li>11 口腔清掃実習 I</li> <li>12 口腔清掃実習 II</li> <li>13 口腔清掃実習 (相互)</li> <li>14 口腔清掃補助用具実習</li> <li>15 チェックテスト (A B 合同)</li> <li>16 まとめ</li> <li>17 期末実技試験</li> <li>18 解説</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 口腔清掃用具 I</li> <li>2 口腔清掃用具 II</li> <li>3 化学的清掃法 I</li> <li>4 化学的清掃法 II</li> <li>5 口腔清掃用具 I</li> <li>6 口腔清掃用具 II</li> <li>7 口腔清掃方法 (発表)</li> <li>8 口腔清掃方法 (フィードバック)</li> <li>9 歯垢染色法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 口腔清掃状態に関する指標</li> <li>11 口腔清掃実習 I</li> <li>12 口腔清掃実習 II</li> <li>13 口腔清掃実習 (相互)</li> <li>14 口腔清掃補助用具実習</li> <li>15 チェックテスト (A B 合同)</li> <li>16 まとめ</li> <li>17 期末実技試験</li> <li>18 解説</li> </ul>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度、出席状況、実習・提出物・課題への取り組みの姿勢、各テストおよび期末実技試験の結果等により総合評価を行う。</p>			

2020年度授業概要

必修

学科名 口腔保健学科		科目名 歯科保健指導実技実習Ⅱ		担当者 植松 汐美	
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )		回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (1単位)	配当学年・時期 2学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>	
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。 [目的・ねらい] 1年次に学んだことをもとに歯科衛生士活動の意義を理解し、様々なライフステージまたは症例に応じた保健指導を行えることを目的とする。また、個別・集団指導の基本的な技法を習得する。 [内容の概要] 口腔清掃補助用具について、義歯関連清掃用具について、口腔清掃指導（リスク、ライフステージ別） [修了時の達成課題（到達目標）] ライフステージや症例に応じた保健指導ができる。 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1 オリエンテーション、1年次の復習		10 登院前試験について（課題の説明）			
2 口腔清掃法実技Ⅰ（ブラッシング指導実技）		11 摂食・嚥下Ⅰ			
3 口腔清掃法実技Ⅱ（ブラッシング指導実技）		12 摂食・嚥下Ⅱ			
4 口腔清掃法実技Ⅲ（ブラッシング指導実技）		13 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅰ			
5 口腔状況に応じた指導法Ⅰ		14 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅱ			
6 口腔状況に応じた指導法Ⅱ		15 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅲ			
7 義歯関連		16 まとめ			
8 セミナー		17 期末試験（登院前試験）			
9 チェックテスト（口頭試問）		18 解説			
[使用テキスト・参考文献] 最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本 「保健生態学」			[単位認定の方法及び基準] 出席状況、授業態度、期末試験により総合評価を行う。実技試験で60点以下の場合は、再試験を行う。期末試験は複数教員で評価を行うこととする。		

2020年度授業概要

必修

学科名 口腔保健学科	科目名 歯科診療補助実技実習Ⅰ		担当者 森 安曇																						
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (1単位)	配当学年・時期 1学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>																						
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での臨床経験や訪問診療、在宅口腔ケアの経験を持ち、豊富な臨床経験から臨床症例を用い、技術や知識のみでなく問題解決能力を育成する教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯科診療で使用する材料の操作手順を実際に取り扱うことにより、その性質等を理解し、実際の診療に即した取り扱い方法を身につける。また、診療の流れを把握し、業務の優先順位を考えた段取り力を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科診療で使用される歯科材料の取り扱い方を学び、業務の流れを把握する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>印象材やセメントの練和ができる。                  歯科材料の取り扱いが正しくできる。                  周囲に配慮した行動や指示通りの行動をとることができる。                  歯科診療の流れを把握し、優先順位に応じた行動ができる。</p>																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 実技オリエンテーション</td> <td style="width: 50%;">12 歯科衛生士業務Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>2 リン酸亜鉛セメント</td> <td>13 歯科衛生士業務Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>3 グラスアイオノマーセメント</td> <td>14 演習</td> </tr> <tr> <td>4 仮封材Ⅰ</td> <td>15 演習</td> </tr> <tr> <td>5 仮封材Ⅱ</td> <td>16 まとめ</td> </tr> <tr> <td>6 仮封材Ⅲ</td> <td>17 試験</td> </tr> <tr> <td>7 アルジネート印象材Ⅰ</td> <td>18 解説</td> </tr> <tr> <td>8 アルジネート印象材Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 連合印象Ⅰ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 連合印象Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 歯科用石膏</td> <td></td> </tr> </table>				1 実技オリエンテーション	12 歯科衛生士業務Ⅰ	2 リン酸亜鉛セメント	13 歯科衛生士業務Ⅱ	3 グラスアイオノマーセメント	14 演習	4 仮封材Ⅰ	15 演習	5 仮封材Ⅱ	16 まとめ	6 仮封材Ⅲ	17 試験	7 アルジネート印象材Ⅰ	18 解説	8 アルジネート印象材Ⅱ		9 連合印象Ⅰ		10 連合印象Ⅱ		11 歯科用石膏	
1 実技オリエンテーション	12 歯科衛生士業務Ⅰ																								
2 リン酸亜鉛セメント	13 歯科衛生士業務Ⅱ																								
3 グラスアイオノマーセメント	14 演習																								
4 仮封材Ⅰ	15 演習																								
5 仮封材Ⅱ	16 まとめ																								
6 仮封材Ⅲ	17 試験																								
7 アルジネート印象材Ⅰ	18 解説																								
8 アルジネート印象材Ⅱ																									
9 連合印象Ⅰ																									
10 連合印象Ⅱ																									
11 歯科用石膏																									
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> 実技試験 80% 提出物 10% 出席・授業態度 10% で総合評価を行う。授業中の私語、居眠り、忘れ物、不真面目な態度等及び身だしなみが整っていない場合は減点の対象とする。																								

2020年度授業概要

必修

学科名 口腔保健学科	科目名 歯科診療補助実技実習Ⅱ	担当者 森 安曇																																									
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 54回	時間数(単位数) 108時間(3単位 )	配当学年・時期 2学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>																																								
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での20年以上の臨床経験を有し、歯科診療補助に必要な技術・知識の習得とともに、チーム医療のスタッフとして専門的な立場から行動できるよう教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>臨床実習に向けて歯科衛生士として必要な知識、技術を高める。今まで学んだことを総合的に考え、自らの行動をマネジメントできる段取り力をみにつけることを目標とする。また、コミュニケーション能力の充実を図る。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床実習に向けてより具体的な歯科診療補助について知識、技術を高めるために、実技実習を行う。ロールプレイを通し、歯科医療現場で自主的に行動することが出来るよう実技実習を行う。歯科医療現場に即した実技実習を多く取り入れる。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>症例に応じた手順、器具や器材の準備ができる。</p> <p>印象材やセメントが適切な状態で練和できる。</p> <p>治療内容を理解し、器具の名前や使用方法が説明できる。</p>																																											
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">1</td> <td style="width: 40%;">オリエンテーション</td> <td style="width: 10%;">24～30</td> <td style="width: 40%;">歯科治療時に使用される器具・器材</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1年次の復習</td> <td>31</td> <td>チェックテスト</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歯肉圧排</td> <td>32～43</td> <td>器具のセッティング</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>歯間分離・隔壁法</td> <td>44～48</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5～6</td> <td>成形歯冠修復</td> <td>49</td> <td>期末試験(登院前試験)</td> </tr> <tr> <td>7～11</td> <td>テンポラリークラウン</td> <td>50</td> <td>解説</td> </tr> <tr> <td>12～13</td> <td>ラバーダム防湿</td> <td>51～54</td> <td>バキュームセミナー</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>印象採得(ファントム)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15～23</td> <td>スタディーモデル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>24～25</td> <td>スタディーモデル(トリミング)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1	オリエンテーション	24～30	歯科治療時に使用される器具・器材	2	1年次の復習	31	チェックテスト	3	歯肉圧排	32～43	器具のセッティング	4	歯間分離・隔壁法	44～48	演習	5～6	成形歯冠修復	49	期末試験(登院前試験)	7～11	テンポラリークラウン	50	解説	12～13	ラバーダム防湿	51～54	バキュームセミナー	14	印象採得(ファントム)			15～23	スタディーモデル			24～25	スタディーモデル(トリミング)		
1	オリエンテーション	24～30	歯科治療時に使用される器具・器材																																								
2	1年次の復習	31	チェックテスト																																								
3	歯肉圧排	32～43	器具のセッティング																																								
4	歯間分離・隔壁法	44～48	演習																																								
5～6	成形歯冠修復	49	期末試験(登院前試験)																																								
7～11	テンポラリークラウン	50	解説																																								
12～13	ラバーダム防湿	51～54	バキュームセミナー																																								
14	印象採得(ファントム)																																										
15～23	スタディーモデル																																										
24～25	スタディーモデル(トリミング)																																										
<p>[使用 テキスト・参考文献]</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版</p> <p>イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、チェックテスト、授業態度で総合的に評価する。期末試験は各項目すべてで60%以上の点数が無い場合は単位を与えない。欠席、早退、私語等授業態度が不良な場合や身だしなみが整えられていない場合は、減点する。</p>																																										